

INTERVIEW



三波公民館長
徳田博史さん
とくだ・ひろし 三波並

今年から三波公民館の主催イベントとなりました。公民館としては、地域の皆さんに楽しんでもらい、地域が活性化すればと願っています。

会場の熱気で桜が咲くのではないかとと思うほど、地元の皆さんはもちろん地域外からもたくさんの方が来場してくれ、うれしく思っています。

今後は地域の皆さんの声を聞きながら、三波地区の伝統や特色をもっと出していければと考えています。



「波並で花見」スタッフ
大黒美憲さん
だいく・よし のり 三波並

買い物することが被災地への応援となるので、誰でも気軽にチャリティーに参加できるイベントです。同じ地区に住んでいながら、普段あまり顔を合わさない人たちが集い、会話を交わし、触れ合う場となり、地域の絆は深まっていると感じています。

地域の価値は、そこに住む『人』で変わります。住んでいて楽しいと自信を持って言える地域づくりが次の世代への活力となるはず。自分たちの力で地域の価値を高めていけるよう、これからもみんなで頑張っていきたいと思えます。



4_高校生3人が、かわいい着ぐるみを着て会場を盛り上げた。
5_チャリティーを宣言する看板。
6_スタッフ手作りのTシャツとエコバッグも販売。
7_早咲きさせた「のとキリシマツツジ」が展示即売。
8_ティーアドバイザーの資格を持つ山崎香奈江さん(左)が紅茶教室を開催。参加者は紅茶の解説を聞きながら3種類のフレーバーティーを楽しんだ。



波並で Hanami de Hanami 花見

寄贈
平成五年三月吉日
大田 郁雄

『波並で花見』は地域活性化とチャリティーを兼ねた花見イベント。昨年、波並地区の有志が集まり東日本大震災チャリティーイベントとして初めて実施された。今年からは三波公民館の主催となってパワーアップ。公民館職員や運営委員、地元有志などがスタッフとなり、4

すべてが手作りのイベント。「波並で花見(はなみではなみ)」が開催。



1_たくさんの人が詰めかけたチャリティーバザー。並べられた商品は、三波地区の皆さんが協力した。
2_昨年11月に開催されたイベント「あったか食堂」でも大人気だった浅井麗華さん(中国出身、能登町在住)の「水餃子コーナー」。
3_手作りのステージで曲を披露する能登町出身のシンガーソングライター、masumiさん。

のライブ▽バザー▽マツサージ▽抽選会」など、さまざまな催しが企画され約500人の来場者を楽しませていた。桜の開花が平年より1週間ほど遅れ、花見を楽しむことはできなかつたが、今にも開きそうに色づいたつぼみが会場の光を和らげていた。会場の一角では、早咲きさせた『のとキリシマツツジ』が桜の代わりと言わんばかりに真っ赤に咲き誇っていた。

『波並』という地名をうまく生かして、地域が主体となって取り組む『波並で花見』。会場では、スタッフも来場者も出店者もみんな笑顔。地域にとって一番の『花見』は満開の桜ではなく、たくさんの『笑顔の花』を見ることがだと感じた。地域の若者たちが『何か面白いことをやってみよう』と起こした小さな波紋は、波並から三波地区へ、三波地区から能登町全体へと、少しずつ広がっている。

笑顔の連鎖を波並から

月15日に開催された。

メイン会場の広場には中国料理やベトナム料理、沖縄料理など多国籍な料理のほか、地元の飲食店が並んだ。公民館ホールにはカフェとアートを楽しむスペースが用意され、紅茶教室や陶芸ワークショップなども開かれた。そのほかにも▽ステージで